

Q19~31【校外との連携】の キーポイントをまとめると…!



保護者が最大のパートナー

最初に連携する相手は保護者であり、しかももっとも大切な連携相手です。

さまざまな思いをしながら子どもを育ててきて、子どものことを一番よく知っているのは保護者です。ですから、子どもへの対応の仕方等で保護者から学ぶことはたくさんあります。

保護者と教員が真っ向から向き合い、学校としての立場から教員の思いを伝えようとしても、主張をぶつけ合うだけに終始してしまいます。子どもを中心にしながら保護者と教員が同じ立場に並んだ上で、今までの子育ての歩みに共感し理解しようとするすることで、同じ方向を見つめ、共に進んでいくことができます。そういう人間関係を築いていくことが、その子どもを囲むネットワークを育てていくことにつながります。

一人で悩まない、苦しめない

「うまくいかないのは自分一人の責任」と悩むことはありません。教員にだって得意なことと苦手なことがあります。パーフェクトでない自分を認めることは、子どもたちを共感的に理解することにつながります。

一人の力には限りがありますから、自分の悩みや苦しみをオープンにして、経験のある同僚の助言を得たり、校外の医療や心理学、更には福祉、労働、行政関係の専門家の力を借りたりして課題解決に取り組みます。特に職種の違う方からいただく意見は、「そんな見方もあったのか」と参考になることが多いはずです。

その連携のつなぎ（コーディネート）をするのが自律教育コーディネーターです。自律教育コーディネーターを介してさまざまな人たちと協力的な人間関係（連携）を築いていきます。

すべてができる教員を目指すのではなく、自分のできないことを知り、幅広く援助資源を活用する「助けてもらうのがうまい教員」になることが大切です。